

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	○全教科を通じて「読む」習慣の定着を図り「読解力」の育成に努めます。 ○授業研究を通じて、個々の授業力向上を図り、わかりやすい授業の実践に努めます。 ○「教育相談」「学習相談」等、個々のニーズに応じた体制の充実を図ります。	○日々の授業の大切さを粘り強く指導した結果、授業規律の確立には一定の成果が見られ、「読む」習慣も少しずつ身につけてきたが、「読解力」の育成には課題が残った。 ○行事の変更もあり、授業研究に十分取り組めなかった。 ○「学習相談」も定着したが、より効果的な内容や方法に改善していく必要がある。	C
豊かな心	○豊かな心を育み、社会との関わりを大切にしながら、自らの道をたくましく切り開こうとする子どもたちを育成するために、「道徳」の授業を中心に学校教育全体を通じて、人を思いやることのできる豊かな感性を大切にします。 ○生徒会活動を活性化させ、「自主・自律」の集団をつくります。	○「道徳」の授業や日々の学級指導等を通して、友人・家族・地域など多くの人の関わりから感謝の気持ちを持ち自己の成長を確かめることで新たな目標に力強く向かっていく意欲を育てることができた。 ○生徒が主体的に考え活動する生徒会活動が少しずつ展開されるようになった。リーダーの育成に力を入れていきたい。	B
健やかな体	○運動や健康に対する知識を身につけ、自分の可能性を見いだせる子どもを育てます。	○学校保健委員会では、「生活習慣の改善について」をテーマに調査・分析・協議が行われ、食生活も含め基本的な生活習慣を身につけることの大切さを確認し合うことができた。 ○保健体育の授業や部活動を通して、健康増進や体力向上の意識を高めることができた。新体カテスト結果の分析をしっかりと行いたい。	B
学校運営協議会	○学校教育活動を積極的に公開し、効果的な情報発信も進めながら、取組の成果と課題について共有し、小中連携した学校運営改善につなげます。	○学校だよりを毎月発行し、学校ホームページの更新も年間を通して適宜行うことができ、保護者からも一定の評価をいただいた。 ○学校運営協議会の協議を通して発議された「意見書」により、小中学校とともに人事面・施設面での改善が見られ、協議会の存在意義を確認することができた。	A
児童生徒指導	○生徒理解にいつそう努め、生徒との信頼関係を基盤として、規範意識を育てます。 ○教職員が率先して挨拶を行い、生徒が自分から挨拶ができるような学校をつくります。 ○教職員は、個別面談を実践し、生徒や保護者と相談しやすい環境をつくります。	○生徒の心情や様々な背景を理解し、形だけでなく内面に迫る指導・支援を継続することができた。「社会で許されないことは、学校でも許されない。」という毅然とした指導を徹底し、比較的落ち着いた学校生活を維持することができた。 ○厳しくも温かい指導・支援を継続していきたい。	B
特別支援教育	○個別支援級と一般学級の子どもの交流及び共同学習を実施します。 ○個別の教育支援計画、個別の指導計画を保護者と共有しながら見直し、よりよい支援ができるように努めます。 ○個々の生徒の状況に応じた的確な支援を行うための特別支援教育の充実を図ります。	○個別支援級と一般学級との交流が日常的に行われ定着している。「だれもが「安心して」「豊かに」生活できる学校をさらにめざしていきたい。 ○支援が必要な生徒が安心して過ごせる場として「支援教室」を機能させることができた。組織的な支援やより効果的・効率的な支援を進めることが今後の課題である。	B
地域連携	○学校・保護者・地域がそれぞれの交流を深め、連携し、協力体制をつくって、それにより地域の教育力を高め、子どもたちが安心して生活できる環境をつくりあげます。 ○教職員・保護者・地域が協力して、生徒が目標にできる活動を展開して、生徒一人一人が地域の発展に貢献できるように支援します。	○PTA中心の「交遊祭」「文化祭」「体育大会」等の学校行事、年間を通して行われる地域のイベントで、生徒も含めた様々な交流・協力が進められた。 ○「職業体験」や地域でのボランティア活動を通して、様々な立場の大人と関わることで、身近な地域に親しみを持ち、自己有用感を育むことができた。	A
人材育成・組織運営	○主幹教諭を中心とした校内運営のリーダー的教職員が十分にその力を発揮できるように、校長、副校長を中心に職場環境の整備、改善を推進します。 ○増加傾向にある若手教職員の育成を図るために、校内研修の充実を図ります。	○教職員個々の優れた力を組織として十分に生かし切れなかった。組織内での「報告」「連絡」「相談」をより一層徹底していく必要がある。 ○「授業改善」「学習評価」「道徳の教科化」「人権教育」など、教職員の専門性を高める研修を意図的・計画的に進めていきたい。	C
ブロック内相互評価後の気付き	○児童・生徒指導については、ブロック内で方向性を共有しながら進めることができた。管理職・専任間での情報共有と対応は迅速・的確にできたが、それを教職員全体に広げることが課題である。 ○授業改善については、年2回の「合同授業研究」が定着し、顔が見える関係づくりや「子ども観」の共有は進んできたものの、「指導観」「評価観」のズレが埋めきれない課題が残る。授業研究で「何を見るのか」「何を改善するのか」を明確にした取組にしていきたい。 ○前例踏襲にこだわることなく、今大切にすべきこと、取り組むべきことを大切にした一貫教育にしたい。		
学校関係者評価	○「落ち着いた学校生活を取り戻し、維持していく。」という学校運営協議会発足当初からの目標に沿った取組は、関係者の努力と協力により一定の成果が表れたと評価できる。(第一ステージ) ○次なる「第二ステージ」は、安心・安全な学校づくりに加えて、児童生徒の基礎学力の定着と学力向上に重点を置いて取り組んでほしい。それに合わせて、児童生徒の「自尊感情」を育む取組もより一層充実させていく必要がある。 ○2中4小の小中一貫教育ブロックにおける取組をさらに充実・発展させていってほしい。		
学校経営中期取組目標振り返り	粘り強く丁寧な生徒指導を積み重ね、保護者や地域の理解と協力も進んできて、安定した学校生活を維持できるようになってきた。これを維持しつつ、今後学校として取り組むべき課題として「学力向上」や「自尊感情の醸成」に重点を置いた学校経営を進めていきたい。そのためには、個々の教職員の指導力や専門性の向上のための校内研修を意図的・計画的に推し進めること、学校運営組織の整備とチーム力の向上を図ることが必要となる。本校南小学校との合同学校運営協議会の充実、2中4小による小中一貫教育の推進を通して、実のある具体的実践を積み重ねていきたい。		

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	○全教科を通じて基礎・基本の定着を図りながら、「読解力」の育成に努めます。 ○授業研究を通じて、個々の授業力向上を図り、「楽しく、わかる」授業「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の実践に努めます。 ○「教育相談」「学習相談」等、個々のニーズに応じた体制の充実を図ります。	○授業規律が概ね確立され、落ち着いた学習環境の中で「楽しく、わかる授業」によって基礎・基本の定着には一定の成果が得られた。ただ、「一人ひとりに合った学習の工夫」や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、今後より一層研究・研修を重ねていく必要がある。学習相談もより効果のある内容・方法を求めていきたい。	B
豊かな心	○豊かな心を育み、社会との関わりを大切にしながら、自らの道をたくましく切り開こうとする子どもたちを育成するために、「道徳」の授業を中心に学校教育全体を通じて、人を思いやることのできる豊かな感性を大切にします。 ○生徒会活動を活性化させ、「自主・自律」「いじめ等問題の起こりにくい」集団をつくります。	○道徳教育実践推進校として公開授業研究に取り組み、教職員の意識が高まったが、それが生徒に良い影響を与える結果となった。社会との関わり、さまざまな人との関わりから、成長の喜びや感謝の心、自己有用感など豊かな心の育成につなげることができた。自尊感情を高める取組を今後より一層充実させていきたい。	B
健やかな体	○学校保健委員会や日常の保健指導等を通して、基本的な生活習慣や運動、健康に対する知識を身につけ、自分の豊かな可能性を見いだせる子どもを育てます。 ○新体カテストの結果をもとに、体力向上に向けて生徒一人ひとりの目標を定め、実践します。	○学校保健委員会では、「スマホ時代のリスクマネジメント」をテーマに、本校での利用実態を調べ、体にとぼす影響について発表し、健康面からのスマホの有効活用への意識向上が見られた。 ○新体カテストの結果により、筋力、持久力等に課題があることが示されたので、授業や部活動で重点化した取組につなげたい。	B
学校運営協議会	○学校教育活動を積極的に公開し、効果的な情報発信も進めながら、取組の成果と課題について共有し、小中連携した学校運営改善につなげます。 ○学校運営協議会の協議内容を広く周知し、地域・保護者のより一層の協力が得られるように努めます。	○学校だより・学年だよりの発行やメール配信システムを活用した情報発信を積極的にを行い、地域や保護者からの学校運営に対する理解・協力が深まった。ホームページ更新の停滞は大きな反省点である。 ○学校運営協議会についての情報発信を今後も継続していく。	A
児童生徒指導	○生徒理解にいつそう努め、生徒との信頼関係を基盤として、規範意識を育てます。 ○教職員が率先して挨拶を行い、生徒が自分から挨拶ができるような学校をつくります。 ○教職員は、教育相談や三者面談等の機会を有効に活用し、信頼関係の構築に努めるとともに、いじめの未然防止、早期発見に努め、保護者の理解・協力を得ながらいじめ根絶に向けて取り組みます。	○一人ひとりの生徒に丁寧に寄り添い、その内面的成長を促す取組を粘り強く継続して行うことができた。「だれもが「安心して」「豊かに」生活できる生徒集団作りを、今後も意図的・計画的に進めていきたい。 生徒はもちろん、保護者との信頼関係の構築に、組織的に取り組む体制を整えていく。	B
特別支援教育	○個別支援級と一般学級の子どもの交流及び共同学習をより一層進めます。 ○個別の教育支援計画、個別の指導計画を保護者と共有しながら見直し、よりよい支援ができるように努めます。 ○「支援教室」の機能を充実させて、不登校生徒等の登校支援や在籍学級への復帰支援を組織的に進めます。	○個別支援級と一般学級の生徒の交流が日常的に自然な形で行われているが、常にアンテナを広く張り巡らせて、誰もが安心して互いに支え合い学び合える交流を今後も進めていきたい。 ○「支援教室」を活用した生徒への支援体制が整ってきた。不登校から再登校へ、支援室から教室復帰へと目に見える成果を残せた。	A
地域連携	○学校・保護者・地域がそれぞれの交流を深め、連携・協力する体制を強化することにより地域の教育力を高め、子どもたちを見守り育てる実践につなげます。 ○教職員・保護者・地域が協力して、生徒一人一人が身近な地域に親しみを持ち、地域の発展により積極的に貢献できるように支援します。	○生徒、PTA、地域による朝の挨拶運動が年間を通して行われ、「笑顔と挨拶」があらゆる学校・地域にしようという機運が高まりつつある。小学校とも連携しながら、挨拶運動の広がり、深まりを目指していきたい。 ○職業体験や地域でのボランティア活動の充実に向けて、様々な工夫を重ねていきたい。	A
いじめへの対応	○定期的にアンケートや教育相談を実施するとともに、日頃から生徒理解に努め、生徒からのSOSを的確に感知し、迅速・適切に対応できる職員体制をつくる。 ○学級活動や生徒会活動、学校行事を通して、健全な生徒集団づくりを進め、生徒たち自身がさまざまな課題を解決できる力を育てる。	○「学校いじめ防止基本方針」を改定し、教職員が一致した体制でいじめの未然防止や早期発見・早期対応、継続的な見守りを行う意識が高まった。いじめを認知した時は、表面的な指導にならないよう、丁寧に粘り強く一人ひとりの内面に迫る指導を続けていきたい。○生徒会等による自主的な活動にも工夫が見られた。	B
人材育成・組織運営	○校内組織における主任・部長・委員長を中心とした学校運営のリーダー的教職員が、十分にその力を発揮できるように、校長、副校長を中心に職場環境の整備、改善を推進します。 ○新たな教育課題に迅速・適切に対応できる教職員体制をつくるために、校内研修の充実を図ります。	○学校運営組織を新たにし、校務分掌上の役割分担を明確にしてより一層組織的な取組を目指したが、まだ十分に浸透しておらず、個に頼る傾向が残り続けている。組織の隙間を埋める意識を高めつつ、お互いに支え合い高め合える教職員集団をつくってほしい。学習評価、道徳の指導と評価、ICT活用について研修を行った。	C
ブロック内相互評価後の気付き	○新たな教育課程の編成に向けて、ブロック内小中学校で「9年間で育てる子どもの姿」を見直し、ブロック内の子ども良さや課題について共有しながら、各学校の特色を生かして取り組んでいく土壌を作ることができた。次年度以降、児童生徒指導の充実や学力向上を目指した具体的取組について、これまでの成果と課題を整理しながら検討していく必要がある。小中合同授業研究を通して、「誰もが安心して参加でき、自尊感情を高める授業づくり」を目指して研究を進めていきたい。「ふるさと本牧」を担う子どもの育成に、地域と連携して取り組む。		
学校関係者評価	○地域での活動や交流を積極的に行っており、子どもたちのより良い成長を支える取組になっている。家庭や地域の教育力を高めるためにも、学校からの情報発信を工夫しながら、今後も積極的に進めてほしい。 ○落ち着いた学校生活を維持できる環境や条件が整ってきたので、個に応じた指導の充実や、学力向上を重点目標に、小中学校が連携・協力して授業改善に取り組む必要がある。「ふるさと本牧」の地域性を生かした教育活動の充実を期待したい。自尊感情を高める基本的な場は、「授業」であることを肝に銘じてほしい。		
学校経営中期取組目標振り返り	○基本的な生活習慣や規範意識を身につけさせ、あたりまえのことをあたりまえにできる生徒集団の育成を着々と進めることができた。健全な生徒集団を育てることを目指し、生徒会活動や学校行事における生徒の自主的活動をより一層充実させていく必要がある。そのための教員の指導力向上やチーム力向上に引き続き努めていく。 ○学習指導要領完全実施に向けて、「主体的・対話的で深い学び」が展開される授業づくりに、ブロック内小中学校と連携・協力して取り組む必要がある。地域に開かれた教育課程の在り方についても議論していく。		

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	○全教科を通じて基礎・基本の定着を図りながら、「読解力」の育成に努めます。 ○授業研究を通じて、個々の授業力向上を図り、「楽しく、わかる」授業「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の実践に努めます。 ○「教育相談」「学習相談」等、個々のニーズに応じた体制の充実を図ります。		
豊かな心	○豊かな心を育み、社会との関わりを大切にしながら、自らの道をたくましく切り開こうとする子どもたちを育成するために、「道徳」の授業を中心に学校教育全体を通じて、人を思いやることのできる豊かな感性を大切にします。 ○生徒会活動を活性化させ、「自主・自律」「いじめ等問題の起こりにくい」集団をつくります。		
健やかな体	○学校保健委員会や日常の保健指導等を通して、基本的な生活習慣や運動、健康に対する知識を身につけ、自分の豊かな可能性を見いだせる子どもを育てます。 ○新体カテストの結果をもとに、体力向上に向けて生徒一人ひとりの目標を定め、実践します。		
学校運営協議会	○学校教育活動を積極的に公開し、効果的な情報発信も進めながら、取組の成果と課題について共有し、小中連携した学校運営改善につなげます。 ○学校運営協議会の協議内容を広く周知し、地域・保護者のより一層の協力が得られるように努めます。○小中一貫ブロックでの連携を進めます。		
児童生徒指導	○生徒理解にいつそう努め、生徒との信頼関係を基盤として、規範意識を育てます。 ○教職員が率先して挨拶を行い、生徒が自分から挨拶ができるような学校をつくります。 ○教職員は、教育相談や三者面談等の機会を有効に活用し、信頼関係の構築に努めるとともに、いじめの未然防止、早期発見に努め、保護者の理解・協力を得ながらいじめ根絶に向けて取り組みます。		
特別支援教育	○個別支援級と一般学級の子どもの交流及び共同学習をより一層進めます。 ○個別の教育支援計画、個別の指導計画を保護者と共有しながら見直し、よりよい支援ができるように努めます。 ○「支援教室」の機能を充実させて、不登校生徒等の登校支援や在籍学級への復帰支援を組織的に進めます。		
地域連携	○学校・保護者・地域がそれぞれの交流を深め、連携・協力する体制を強化することにより地域の教育力を高め、子どもたちを見守り育てる実践につなげます。 ○教職員・保護者・地域が協力して、生徒一人一人が身近な地域に親しみを持ち、地域の発展により積極的に貢献できるように支援します。職業体験や地域でのボランティア活動の充実を図ります。		
いじめへの対応	○定期的にアンケートや教育相談を実施するとともに、日頃から生徒理解に努め、生徒からのSOSを的確に感知し、迅速・適切に対応できる職員体制をつくります。 ○学級活動や生徒会活動、学校行事を通して、健全な生徒集団づくりを進め、生徒たち自身がさまざまな課題を解決できる力を育てます。		
人材育成・組織運営	○学校運営に組織的に取り組めるよう、役割分担を明確にし、校務分掌の隙間を埋める意識を高めつつ、互いに支え合い高め合える教職員体制をつくります。 ○新たな教育課題に迅速・適切に対応できる教職員体制をつくるために、校内研修の充実を図ります。		
ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価			
学校経営中期取組目標振り返り			